

**熊本県理学療法士協会学術誌「熊本県理学療法アドバンス」
投稿規程および執筆要項**

1. 本誌は公益社団法人熊本県理学療法士協会の機関誌として、理学療法および関連分野における研究や報告など、学術的内容を掲載することを主な目的とする。
2. 投稿は原則として本会の会員に限る。ただし、学術誌検討委員会（学術誌あり方検討チーム）の決定により、会員外の著者へ投稿を依頼することもある。
3. 論文の種類は、①研究論文（原著）：新規性・独創性があり明確な結論を示した論文、②症例報告：症例の治療および経過などについて論理的に提示し、考察を行った論文、③短報：研究の速報・略報として簡潔に記載された短い研究論文、④その他：学術誌検討委員会が投稿を認めたもの。
4. 原稿の採否は、査読審査を行いその意見を基に最終的には学術誌検討委員会が決定する。審査の結果、原稿の修正を求められることがある。また必要に応じて学術誌検討委員会の責任において文句の修正を行う事がある。
5. 他誌へ発表または投稿中の原稿は原則として受け付けないものとする。
6. 本誌に掲載された論文の著作権は、公益社団法人熊本県理学療法士協会に帰属する。
7. 投稿に際しては必ず共著者の同意を得ること。ヒトを対象とする研究の場合、ヘルシンキ宣言および厚生労働省の制定する倫理指針に基づき対象者の保護には十分留意すること。また本文中で倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。研究論文および症例研究については、倫理審査委員会の承認を得ることを必須とし、本文中に委員会名と承認番号（または承認年月日）を記載する。さらに被験者・症例の個人情報を守るため、氏名、生年月日など特定の個人を識別できるような記述をしないようにすること。
8. 図表等の引用・転載は、著作権者の許諾が必要な場合があるため、そのような転載がある場合は必要な手続きを行っておくこと。
9. 著者は自己の責任において以下の作成上の注意に則り完全な原稿で投稿すること。
10. 原稿はメールで投稿をすること。メール投稿は Microsoft Word で、読み込み可能なファイルを添付すること。
11. 外国語名（地名、人名、その他）は原則として原語を用いること。また、略語はできる限り訳語を使用し必要に応じて（ ）の中に原語を入れること。
12. その他：編集部の判断により、症例検討の内容によっては「原著」「短報」の構成で本文の再構成を指示する場合がある。

執筆要項

1. 原稿の規定分量
「研究論文（原著）」「症例報告」：400字×30枚（12,000字）以内 「短報」：400字×15枚（6,000字）以内 「その他」：400字×25枚（10,000字）以内 図表は1個を400字として換算すること。

2. 表紙頁

1) 論文には表紙頁をつける。2)表紙頁には、①希望する論文の種類（総説、原著、短報、症例報告、活動報告、その他）、②標題、③著者名（共著者を含めて記載）、④所属名（共著者を含めて記載）、⑤責任著者連絡先（氏名、所属、会員番号、郵便番号・住所、電話番号・メールアドレス）を記載する。

3. 要旨

全ての論文には和文の要旨（400字以内）をつける。要旨のあとに3～5個程度のキーワードを付ける。

4. 本文

- 1)文章はひらがな口語体現代かなづかいで横書きとし、漢字は述語以外当用漢字を用いること。また、単位は原則として国際単位系（SI単位）を用いること。（長さ：m、質量：Kg、時間：s、温度：℃、周波数：Hzなど）
- 2)原稿の書式は、①A4サイズ、②余白上下、左右25mm、③40文字×30行、④10.5ポイント明朝体とする。英数字は「日本語と同じフォント」とし、数字は半角とする。
- 3)投稿文章においては句読点ではなく、カンマ（,）・ピリオド（.）を用いること。

5. 図表

1)図・写真・表：図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は、図の下に、表の番号および表題は、表の上につける。図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり、投稿時に許可書を提出する。図表の説明（キャプション）は、図表の後に頁をあらたにして記載する。スライド図・表は投稿用に作成し直す。

※表：コンピュータソフト（MS Word, Excel等）で作成し、画像化（JPG、PDF）しない。

※図：線画の解像度は600 dpi以上、写真の解像度は300 dpi以上とする。コンピュータソフト（Power Point等）で作成し、TIF、EPS、pptx形式で保存して投稿する。

他書（他誌）から図表等を転載する場合は、原稿の一部となるため、論文著者の責任において著作権者に許諾申請を行い、使用した図表にはその旨を記載する。無断転載は著作権の侵害となる場合があるため注意する。以上について編集部は一切の責任を負わない。

6. 論文の構成

1. 「原著」「短報」の構成

- (1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。
- (2) 著者名：著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。
- (4) キーワード：3～5個程度とする。標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語（英語など）または日本語で記載する。
- (5) 本文：本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - 1 はじめに（序論、緒言）：研究の背景、臨床的意義、研究の目的、取り扱っている主題の範囲、先行研究との関連性などを記述する。

- 2 対象および方法：用いた研究方法について第三者が追試できるように記述する。倫理的配慮も記述すること。
- 3 結果（成績）：研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは、検証、追試を行いやすいように図（グラフ）よりも表にして数値で示す方が望ましい。
- 4 考察（分析）：結果の分析・評価、今後の課題などを記述する。
- 5 結論：研究で得られた結論を 200~300 字程度で簡潔に記述する。
- 6 利益相反：利益相反に関し、投稿時に利益相反の有無について開示する。
- 7 謝辞：著者資格に該当しない研究への貢献者、および助成金受給等について記載する。

(6) 文献：引用文献のみを、本文の引用順に記載する。（記載方法は下記参照）

□. 「症例研究」の構成

- (1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語・略称は用いない。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。
- (2) 著者名：著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。審査開始後の著者の変更は原則認めない。
- (3) 要旨：「はじめに」「症例紹介」「経過（結果）」「考察・まとめ」について項を分けて簡潔に記載する。
- (4) キーワード：3~5 個程度とする。標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語（英語など）または日本語で記載する。
- (5) 本文：本文は原則以下の項目に沿って本文を構成する。
 - 1 はじめに（序論、緒言）：対象を選択した理由や根拠を記述する。
 - 2 症例紹介：症例の基本的事項；基本情報（年齢、性別等）、病歴（現病歴、必要であれば既往歴、家族歴、社会生活歴）、臨床検査所見、理学療法評価結果、理学療法方針・介入内容を簡潔に記述する。倫理的配慮およびプライバシーの保護に関しては、投稿規定「研究倫理」の記載内容に従うこと。
 - 3 経過（結果）：介入経過（結果）を簡潔に記述する。
 - 4 考察：過去の報告との類似点や相違点について比較検討を行い考察する。今後の治療の展開・方針転換や研究への広がりがある場合は、それらの提案についても記述する。
 - 5 まとめ：症例を通じて明らかになった点を簡潔に記述する。
 - 6 謝辞：著者資格に該当しない研究への貢献者、および助成金受給等について記載する。

(6) 文献：引用文献のみを、本文の引用順に記載する。（記載方法は下記参照）

7. 文献

- 1) 引用文献は、本文の引用順に並べる。
- 2) 引用文献の著者名が 3 名以上の場合、最初の 2 名を記載する。その他は、「他」または「et al.」とする。
- 3) 雑誌名の記載
 - 【和文雑誌】原則として略称は用いない。
 - 【英文雑誌】略称を用いてもかまわない。略称は、公の省略法（Index Medicus など）に従う。
 - 例 1) American Journal of Medicine → Am J Med
 - 例 2) BRITISH MEDICAL JOURNAL → BMJ

4) 記載方法

- ①雑誌の場合〔例〕 執筆者：題名，雑誌名 巻（号）：最初の頁-最後の頁，発行年
- 1) 野原慎二，他：熊本圏域における超高齢脳卒中患者の転帰に関する検討．総合リハ 45：1147-1152，2017
 - 2) Greer M, et al：Physiological responses to low-intensity cardiac rehabilitation exercises. Phys Ther 60：1146-1151，1980
- ②単行本の場合〔例〕 著者名：書名．引用ページ，発行所，発行場所（外国の場合のみ），発行年
- 1) 高橋仁美：急性期呼吸理学療法．Pp12-20，メディカルビュー社，2010
 - 2) Basmajian JV：Muscles Alive. Their Functions Revealed by Electromyography, 4th ed. Williams & Wilkins, Baltimore, 1979

原稿の送付先

1 メール投稿は以下のアドレスへ送信すること。

（編集委員葛城 kpt.academic.journal@gmail.com）

投稿する場合は、メールタイトルの最初に「理学療法熊本初回投稿」と所属支部名、所属施設名、投稿者名を明記のこと。

原則として、査読審査後のメールのやり取りは、著者が投稿時に使用したアドレスを使用し、担当編纂部員が連絡（メール）をする。

2 投稿に関する問い合わせ

E-Mail：kpt.academic.journal@gmail.com 担当：葛城裕、山下大翔

（附則）本規程は令和 5 年 8 月 1 日から施行する。